

## 令和5年度有田市文化賞受賞者が決定

令和5年度有田市文化賞受賞者が決定いたしましたので、お知らせします。

有田市文化賞は、文化の発展に貢献したと認められる個人または団体に対し、その功績をたたえ市長が表彰するもので、本市における地域文化の向上と振興を図ることを目的に平成5年度に制定され、今回で31回目の表彰となります。

表彰式は次の日程で行います。

### 【有田市文化賞表彰式】

■日時／11月10日(金) 午前10時～

■場所／有田市文化福祉センター

#### ■受賞者

文化賞 湯瀬 己巳(ゆせ きし)氏

文化功労賞 谷本 重雄(たにもと しげお)氏

文化功労賞 藤本 忠信(ふじもと ただのぶ)氏

文化奨励賞 吉田 美喜夫(よしだ みきお)氏

----- この件に関するお問い合わせ先 -----

〒649-0392 和歌山県有田市箕島50

有田市役所秘書広報課

担当: 澤田・橙木

TEL: 0737-22-3715 FAX: 0737-83-2222

Email: hisho@city.arida.lg.jp

令和5年度

受賞者(敬称略)

文化賞 湯瀬己巳

文化功労賞 谷本重雄

文化功労賞 藤本忠信

文化奨励賞 吉田美喜夫

# 文 化 賞

湯 瀬 己 巳

(芸名：花柳芳登紀巳)

※平成10年 有田市文化奨励賞受賞

※平成24年 有田市文化功労賞受賞

※花柳流よしみ会 代表



昭和4年、台湾台北市に生まれる。現在、箕島在住。

幼い頃から日本舞踊を習い始め、16歳で日本に戻ってからも精進を重ね、昭和22年に花柳流家元から芳登紀巳の師範を許され指導者となる。

指導者となってからはさらに自らを厳しく律して出稽古を積まれ、旺盛な研究心で花柳流を代表する指導者となられた。昭和28年、「花柳流よしみ会」を立ち上げ、毎年一門の発表会を催すとともに、国立文楽劇場にも幾度も出演を果たされた。丁寧で優しく愛のある指導で知られ、これまでの70年を超える舞踊家としてのキャリアの中で指導した弟子は数百名におよぶ。門下から17名の名取を輩出され、日本舞踊の魅力を幅広い世代に伝えられている。

平成23年に開催した一門の発表会では、東日本大震災被災者支援のための募金活動を実施。長寿祭の総踊りや紀文まつりの練り歩きの指導にも長年携わるほか、門下生一同とともに和歌山女子刑務所への慰問などのボランティア活動にも精力的に取り組んでこられた。

また、国民文化祭にも幾度も出演。「有田みかん摘み唄」を披露するなど、活動の場は市内にとどまらず、伝統芸能の伝承と発展に活躍された。

文化功労賞受賞後、平成28年には後進に指導者の座を継承し、現在は指導者や門下生らへのアドバイスを中心に行われており、これまでの本市文化の振興及び向上発展に対する功績は誠に顕著である。

# 文化功労賞

たに もと しげ お  
谷 本 重 雄



昭和10年、大阪市に生まれる。現在、糸我町在住。

家具職人を生業としており、65歳の時に自分の好きなことをしたいという思いから、「からくり人形」「能面」を独学で学び、創作活動を開始された。からくり人形には設計図がなく、複雑な仕組みとなっているが、あくなき探求心から試行錯誤を重ね、工夫を凝らした作品づくりに励まれている。興味のある方には無償で指導を行っており、長所を褒めて伸ばす指導により、何度も足を運ぶ方も多い。

16年前からは「仏像」づくりにも興味を持ち、仏師の村井照念氏に弟子入りされた。展示会にも出展する仏像は、緻密で精巧、人となりか如実に表れている。

設計図を作らずとも自身の頭の中に設計図ができあがっており、ひらめきやアイデアがどんどんわいてくるという氏は、令和元年に初めて開催された和歌山県人会世界大会において、からくり人形を実演紹介された。

今年4月には、これまでの活動が評価され、アメリカのシアトルで開催された「シアトル桜祭り・日本文化祭」に招待された。3日間で約9,000人が訪れる会場で、手作りの江戸からくり人形「弓曳童子」や「茶運び人形」、「祭り太鼓」を実演紹介され、人気を博した。

全国から木彫の公募展の案内が送られてきており、現在は動く猿の木彫り人形を手がけられているなど、積極的に活動され、日本古来の芸術作品の制作を通じて日本文化の振興に大きく貢献されている。

# 文化功労賞

ふじ もと ただ のぶ  
藤 本 忠 信

※平成30年 有田市文化奨励賞受賞

※有田市文化協会 副会長

※有田市語り部の会 会長

※有田市文化財保護審議会 会長



昭和19年、有田市に生まれる。現在、宮原町在住。

50年前から有田市の文化や歴史について学習を始め、当時から郷土史に精通した元宮原村長の村山源一氏や、有田市出身の仏教史学者で龍谷大学の名誉教授も務められた宮崎円遵氏に指導を受け、その知識を深められた。

平成22年には和歌山県観光連盟より紀州語り部として認定を受け、語り部として活動される中、平成26年設立当初から「有田市語り部の会」にも所属されている。「時さかのぼる歩き旅」などの行事や、年間約120名に及ぶ観光ツアー客の受け入れなど、語り部の活動を通じて有田市の文化や歴史の魅力を広く伝えている。平成30年4月からは会長として中心的役割を果たされるほか、県外の史跡にも積極的に足を運び、そこで学んだ歴史と有田市の歴史との関連性を探るなど、自身がライフワークとする研究にも熱心に取り組まれている。

文化奨励賞受賞後も、有田市の素晴らしい文化と歴史を多くの方に知ってほしいという思いから、上記の活動や連載の執筆など多方面で活躍。紀州有田商工ニュースの「こんな話が残っています」のコーナーでは、市文化協会郷土史部の方々と共に地域の民話や伝説を紹介する連載を10年にわたり120回執筆された。同コーナーは惜しまれながら本年10月に終了したが、執筆にあたっては、その地域の方々に直接話を聞き、読みやすいように易しい表現でまとめるなど読者の目線で様々な工夫をされた。

後世に分かりやすく、広く伝えていく活動を通して、郷土史の継承、普及に大きく寄与されている。

# 文化奨励賞

よし だ み き お  
吉 田 美 喜 夫

※平成18年、平成19年  
和歌山県美術展覧会 入選  
※平成3、4、10、11、14、17年  
有田市美術展 入賞

※有田市文化協会 理事  
※有田市美術家協会 会員



昭和24年、有田市に生まれる。現在、辻堂在住。

高校生の頃から写真に興味を持ち、写真部で白黒のフィルム現像や焼付に出会う。卒業後、写真関係の会社に就職し、カラーのフィルム現像や焼付などを担当。海外への出向も経験し、現地のスタッフに撮影や現像の技術を指導された。

その後、有田市に戻り、家業の家具屋を経営する傍ら、伝統行事や風景を撮影。「写真とは真実を写すものである」という信条のもと、加工などはせず、ありのままを切り取ることにこだわる。

市内伝統行事や祭り、花火などの写真を精力的に撮影するなど創作活動が続けながら、有田市文化協会の写真部に入部。「過去には戻れないので、今の真実や風景を切り取って残していきたい」という思いで、新聞社や市に無償で写真を提供したり、興味がある方には指導したりと、ボランティア活動にも積極的に取り組まれている。

有田市美術展では、写真部門の審査員を長年にわたり務められているほか、誰にでも快く写真の撮り方を教え、写真のすそ野を広げながら魅力を広く伝え、本市文化の向上発展に長きにわたり貢献されている。